

一、次のアからカの中から、一つを選び、知るところを述べよ。(解答用紙に題名を明記せよ。)

ア、インド佛教における縁起説

イ、諸子百家とその思想

* 適宜対象を絞って論ずること

ウ、經學としての朱子學

エ、道教と鬼神信仰

オ、天台宗と他宗との論諍

* 題目を付け一つの觀點に絞って論ずること

カ、寺社縁起の類型と構造

二、次の諸問中から、六問を選んで説明せよ。(解答用紙に題名を明記せよ。) ※解答用紙三行程度を、解答の目安とせよ。

ア、龍虎交媾

イ、三種の神器

ウ、董仲舒

エ、聖德太子信仰

オ、道藏

カ、劉歆

キ、誠意

ク、毘盧遮那佛

ケ、冥報記

コ、北宋道学

サ、文昌帝君

シ、往生論註

ス、比叡山

セ、『漢書』藝文志

ソ、目犍連

タ、金剛智

チ、神身離脱

ツ、梵網經

テ、一遍

ト、有頂天

ナ、陸王學

ニ、三論宗

ヌ、五經正義

ネ、忠孝

ノ、楊義

ハ、王莽

ヒ、速疾成佛

フ、prāpti

ヘ、duḥkha

ホ、avidyā

三、次の六問中から、二問を選んで記せ。

（問題記号を明記せよ。）

ア、次の文章を書き下し文にせよ。

魯季敬姜者、莒女也、號戴己。魯大夫公父穆伯之妻、文伯之母、季康子之從祖母也。博達知禮。穆伯先死、敬姜守養。文伯出學而還歸。敬姜側目而盼之。見其友上堂、從後堦降而卻行、奉劔而正履、若事父兄。文伯自以爲、成人矣。敬姜召而數之曰、昔者武王、罷朝而結絲繻絕、左右顧無可使結之者。俯而自申之。故能成王道。桓公坐友三人、諫臣五人、日舉過者三十人。故能成伯業。周公一食而三吐哺、一沐而三握髮。所執贄而見於窮閭・隘巷者七十餘人。故能存周室。

イ、次の文章を書き下し文にせよ。

蓋天命之性、率性之道、皆理之自然、而人物之所同得者也。人雖得其形氣之正、然其清濁厚薄之稟、亦有不能不異者。是以賢智者或失之過、愚不肖者或不能及、而得於此者、亦或不能無失於彼。是以私意人欲或生其間、而於所謂性者、不免有所昏蔽錯雜、而無以全其所受之正。性有不全、則於所謂道者、因亦有所乖戾舛逆、而無以適乎所行之宜。惟聖人之心、清明純粹、天理渾然、無所虧闕、故能因其道之所在、而爲之品節防範、以立教於天下、使夫過不及者、有以取中焉。

2 / 4

ウ、次の文章を書き下し文にせよ。

太上、下知有之「一」。其次親而譽之「二」。其次畏之「三」。其次侮之「四」。信不足焉、有不信焉「五」。猶兮其貴言「六」、功成事遂、百姓皆謂我自然「七」。

「一」太上謂太古無名號之君。下知有之者、下知上有君而不臣事、質朴也。

「二」其德可見、恩惠可稱。故親愛而譽之。

「三」設刑法以治也。

「四」禁多令煩、不可歸誠、故欺侮之。

「五」君信不足於下、下則應之以不信、而欺其君也。

「六」說太上之君、舉事猶猶、貴重於言、恐離道失自然也。

「七」百姓不知君上之德淳厚、反以爲己自當然。

（「一」～「七」も訓讀すること。）

二、 次の文章を書き下し文にせよ。

蜜 具云蜜多。此翻云到。若迴文順此方俗、應云到彼岸也。謂離生死此岸度煩惱中流、到涅槃彼岸。然一切衆生即寂滅相、不復更滅。但以迷倒妄見生死名爲此岸。若悟生死本來空寂名到彼岸。且約對翻六蔽略有六種。謂性無慳貪毀禁瞋恚懈怠動亂愚癡。順本性故、修行施戒忍進定慧。既稱性而修、即皆到彼岸。菩提資糧論中慧爲初者、由慧成五、五助慧故。故彼論云、既爲菩薩母、亦爲諸佛母。般若波羅蜜、是覺初資糧。

才、 次の文章を書き下し文にせよ。

大日滿月、分光於沙界之中、甘露慈雲、垂澤於鐵圍之外。不滅不生、道斷言語、無適無莫、憶隔心肝。夫圓宗寺者、爲護國利生、弘法傳燈、殊發叡慮、所草創也。擇地於仁和寺勝形之左、卜處於古先帝山陵之前。於是班倕從事、土木畢功。葺年而成、金堂寶塔、似從地涌出、不日而止、紺頂烏瑟、如自天來降。方今寺有樓、樓有鐘。聲振參千之月、響驚朝夕之風。若無其銘、何以示後。

カ、以下の文章を和訳せよ。

The movement of beings between rebirths is not seen as a haphazard process, but as ordered and governed by the law of karma. Karma (Pali *kamma*) literally means ‘action’, and the principle of the ‘law of karma’ is that beings are reborn according to the nature and quality of their actions. Past actions are said to ‘welcome’ one in a future life like a person being welcomed by kinsmen (*Dhp.* 219-20), so that:

Deeds are one’s own . . . beings are heir to deeds, deeds are matrix, deeds are kin, deeds are arbiters. Deeds divide beings, that is to say by lowness and excellence. (*M.* III.203)

This is explained as referring to the karmic effect of various actions. A person’s actions mould their consciousness, making them into a certain kind of person, so that when they die their outer form tends to correspond to the type of nature that has been developed. What begins as a trace in the psyche later crystallizes out as an aspect of a person and their world.

※WEB 掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。
From An Introduction to Buddhist Ethics Foundations, Values and Issues. Peter Harvey.
Copyright © 2000 by Cambridge University Press.
Reproduced with permission of the Licensor through PLSclear.

受験番号	
氏名	カナ
	漢字

この欄以外に受験番号、氏名を記入しないこと。

漢字氏名がない場合は、ひらがなで記入すること。

——ここから記入すること——

東洋哲学

総 点

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(裏へ続く)

——ここから記入すること——

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

東洋哲学

——ここから記入すること——

(裏へ続く)

———これより先の余白には絶対に記入しないこと———